

福岡県指定無形民俗文化財

八女津媛 浮立神社の 心に響く悠久の舞

5年に一度の公開

令和6年

11/17日

場所

八女津媛神社

八女市矢部村北矢部神窟

時間 午前9時30分～道囃子 / 午前10時～八女津媛神社境内 奉納公開

【主催】 八女津媛神社浮立保存会 【後援】 八女市 / 八女市教育委員会

【お問合せ】 八女市役所 矢部支所 総務係 (☎ 0943-47-3111)

やめつひめじんじゃ ふりゅう
八女津媛神社の浮立

開催場所 八女市矢部村北矢部字神窟 八女津媛神社境内

開催日 11月17日(日) ※5年に1回開催

指定 福岡県指定無形民俗文化財：昭和51年4月24日指定

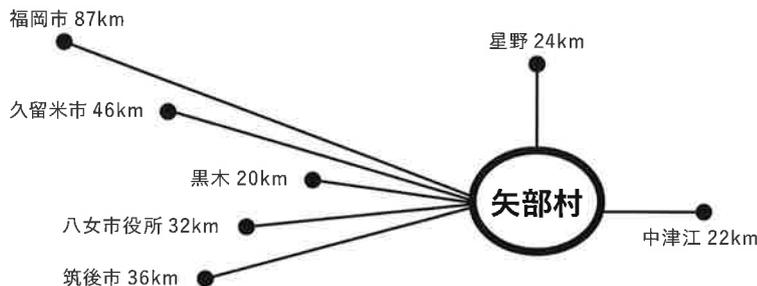
浮立について

八女津媛神社は、八女地方の古い地主神と考えられ、八女の名の起りこりとされている。八女津媛神社の浮立は、神社の五穀豊穰や無病息災を祈願し、その御願成就に奉納する行事。浮立は、県内でも最大規模の祭りで、筑後地方各地に伝わる風流の集大成とされた形と考えられる。祭りは、七戸の神課（神家）によって代表され、編成は、笛方、真法師1名、太鼓打2名、小太鼓打2名、鉦打2名、むらし2名、猿面2名、御幣持1名などの外、思い思いに仮装した老若男女が囃子方に多数参加する。現在は、伝承活動として、矢部清流学園により、毎年11月の矢部まつりに披露。八女津媛神社氏子による本来の浮立は、5年に1回奉納公開される。本年が公開の年となる。

八女津媛は景行天皇巡行の時、この地に女神あり常に山中にあると奉上。其の名を八女津媛と云うと奉上したことから八女の地名が起こったと云う伝説があり、平安朝末頃600~700年前から浮立奉納が始まった。

昭和3年に実施されたのを最後に、第二次大戦後まで休止。昭和26年1月より復活し、以来不定期で開催されてきたが、それ以前のことは文献がなく不明である。昭和26年1月、38年12月、41年、43年、48年、以後5年ごとに公開され、前回の公開は令和元年。八女津媛神社の創建は養老3年3月（西暦719年）であり、今年で1305年となる。

使用する祭具・道具など：大太鼓2、小太鼓2、鉦2、シンバル2組、竹笛20、七福神用衣装と面。



八女津媛神社への交通アクセス

八女インターより国道442号を
八女市街～黒木～矢部方面へ約60分

